

ティーチング・ステートメント

所属 北海道科学大学

名前 高栗 郷

作成日 2023年3月22日

【責任】

薬学部薬学科において、「薬理学」や「薬と疾病」などの専門科目や実習・演習を担当し、教育・研究活動を行っている。主な教育活動として、薬理学関連科目（薬理・医薬科学概論、薬と疾病（循環器、呼吸器、泌尿器・生殖器、感覚器・皮膚）など）を取り扱っている。また、卒業研究指導、学修・就職支援ならびにクラス担任として活動している。

【理念】

学生には、自ら率先して行う行動力、物事に疑問を抱くことのできる研究マインド力、そして論理的思考能力を備えた人物に育てて欲しいと思う。今後薬剤師が淘汰される時代が来ることが予想されており、ますます医療現場で従事する薬剤師は、これら力が必要不可欠となってくる。学生時代からこれらの力を身につけることは大変重要である。

今般の学生は、いわゆる指示待ち人間、何事に関しても受け身である傾向が強いように思う。学生が社会に出て行く際、自らの行動力・積極性を発揮し、社会に飛び出して困難に遭遇した時に立ち向かう忍耐力も必要である。また、薬学は科学を扱う学問であり、常に知識をアップデートすることが求められ、研究マインドや物事を道筋を立ててまとめあげることのできる論理的思考能力が必要となる。

これらを身につけるには、まず大学で学ぶ科目や研究の面白さや辛さを肌で感じて頂く必要がある。主に授業や卒業研究などを通じて、これらを実行に移していきたい。

【方針・方法】

上記理念を実現するために、主に卒業研究ならびに授業において、以下の方針・方法を用いて教育活動を行っている。

「科目の面白さや繋がりを理解してもらう」

- ・ 科目間の繋がりを意識した自作の資料を配布し、単独の科目としてではなく、いくつかの教科の上に成り立っていることを意識させ、科目の理解を深めさせる。
- ・ 授業中、あるいは宿題として、授業で学んだ項目について、必ず問題を解かせ、理解度を深めさせる。
- ・ 最新の科学一般について紹介し、生命科学に興味をもたせる。

- ・各種試験において、科目間の繋がりを意識した試験問題としている。

「考える力や研究マインドを身につけてもらう」

- ・日々の卒業研究では、なんでも聞くという姿勢から、自らまず考えさせ、行動するよう指導している。
- ・自身の研究以外についての知識を得ることやより幅広い視野をもてるよう、学会発表の機会を必ず設ける。
- ・新規実験計画の立案やデータの整理・解釈を通じて、考え、報告する機会を与えている。
- ・論文などを通じて、論文の構成を学ぶとともに、論理的な流れとなっていることを意識させている。

「行動力・実践力を身につけさせる」

- ・時間のマネジメントを行い、メリハリをもった卒業研究生生活を行うよう指導しており、特に朝は決められた時間に登校することを義務付けている。
- ・新規性をもつ研究課題を与え、モチベーションの維持を保つようにしている。
- ・実験計画を立案・実験準備をしっかりとした上で、実行に移すよう指導している。
- ・まずは自ら考えた上でやってみるという姿勢で、学生自身が失敗を繰り返しながら学んで、次の行動に移せるような環境を整える。

【評価・成果】

- ・授業アンケートでは、多くの学生が概ね満足との評価をしているが、それが科目の理解度に必ずしも繋がっていない。解決方法としては、回答率を高める工夫と、授業中に別途、学生に授業を受けてみての振り返りなどをさせてみる。
- ・これまでの配属学生には、学会発表および論文に共同著者として名前を付しており、学生自身の貢献度が目に見える形を残している。
- ・学会において優秀発表賞を多数受賞している。
- ・ここ5年間は、論文を年2-3報は出版できている。

【目標】

短期目標としては、授業アンケートに基づいて授業改善を図りつつも、科目の面白さや繋がりがわかる授業展開を行い、学生の理解をより一層深めることに注力する。また、学生との論文発表や学会発表についてはこれまで通り継続して行っていきたい。

長期目標としては、授業・卒業研究などを通じて、「考える力」、「研究マインド」、「行動力」をもつ学生を一人でも多く育てていきたい。